小美玉市の歴史を知ろう⑱
取手山館（田余砦）と園部城

覇権を争う戦国の世、十六世紀に園部川を挟んで二つの勢力が対立していました。江戸氏と大掾氏です。

江戸氏は、のちの水戸城を中心に領地を広げ、さらに小幡城（茨城町）を府中城（石岡市・大掾氏本城）攻略の重要な拠点とし、南に勢力を拡大していました。

一方、大掾氏は、天文六年（一五三七）、園部氏（当時は小田氏家臣）からの侵攻に備えるため、園部城を見渡せる田木谷の台地に取手山館を築きました。この館は、文献によって「田余砦」、「玉里砦」とも記されています。園部城と取手山館とは九〇〇ｍほどしか離れていません。さらに、永禄二年（一五五九）、府中城の北の守りとして竹原城を築城しています。

天正十三年（一五八五）十一月、この両者に争いが巻き起こりました。諸説ありますが、その発端は、大掾領田余と江戸氏家臣園部領小河の百姓の間の境界争いだと言われています。

十一月二十四日には、江戸氏は、片倉に砦を築き、大掾氏に対する最前基地としました。また、大掾氏は取手山館を改修して、園部氏の侵攻に対抗しました。十二月上旬には、大掾氏は、取手山館に兵を送り、園部城を攻めましたが、園部氏は江戸氏からの加勢を得てこれに対抗しました。

園部城からみた取手山館

天正十四年（一五八六）八月六日、のちに「府中合戦」と呼ばれる戦いが始まります。江戸氏は、府中城攻略を本格化させて、小幡城に出陣し、大掾方の竹原勢と戦い、翌七日には、竹原の弓削砦を攻め落としました。さらに、街道を南下して、滑川砦（石岡市）を落とし、府中城に侵攻しました。しかし、大掾氏は真壁氏らの援軍を得て、江戸氏を返り討ちにしました。その後、佐竹氏の仲介により両者との間に和議が結ばれました。

天正十六年（一五八八）正月、江戸氏と大掾氏との和睦が破られて、争乱が再開されました。大掾氏は、取手山館を修築して臨戦態勢をとりました。

江戸氏は、佐竹氏からの援軍を得られることになり、二月二十四日、小幡城にて合流した江戸・佐竹軍は、竹原に陣を進めました。別の軍は、取手山館を取り囲み、周辺の村々に火を放ったとされています。

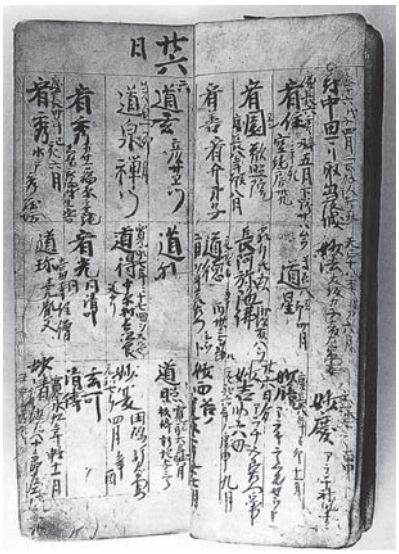
四月二十五日、取手山館は、江戸・佐竹軍の急襲をうけ、戦死者二百名を超す激戦の末、落城しました。この戦いは玉里合戦もしくは取手山の戦いと呼ばれています。この戦いは和光院過去帳（水戸市）に「府中田マリ取出落城、二百余人打死」と記されています。合戦後、両者の間で和睦が結ばれました。そして、最終的に大掾氏と江戸氏の戦いには決着はつきませんでした。

天正十八年（一五九〇）、佐竹氏は、小田原征伐の功績により、豊臣秀吉から常陸国などの支配が認められました。これを背景に佐竹氏は、常陸国に残る領主たちを仕置していきます。まず、水戸城を急襲して江戸氏を追放し、さらに、府中城に軍勢を進め、大掾氏を滅亡させました。また、軍勢の一手によって園部城も落城してしまいます。

園部城には、佐竹氏支配のもと茂木氏が入城しますが、慶長七年（一六〇二）、佐竹氏が秋田に国替えになると、戸沢氏が秋田角館から入封してきます。その後、戸沢氏は居城を小河から多賀郡手綱（高萩市）の竜子山城に移します。これにより、園部城は廃城になったと思われます。

水戸藩が成立すると、園部城跡は、御殿や水運を掌る運送方役所として利用されます。その後、運送方役所が上戸村（潮来市）に移転されると、文化元年（一八〇四）、小川稽医館が創設されます。明治時代になると、小川小学校が創立されて、現在に至ります。

一方、取手山館は、築城以来約五〇年でその役割を終え、江戸時代には、山林や畑になったことが、当時の絵図に描かれています。土塁は崩され、堀は埋められて、現在では、館の痕跡はほとんど分かりません。


和光院過去帳（和光院所蔵）
右上に「府中田マリ取出落城～」とある